

## 260 世界最大の根本ウソは何か

6月17日、「谷口雅春大聖師三十一年祭」が長崎の総本山で行われた時の雅宣総裁のご挨拶文が「唐松模様」に掲載されています。その中に、

≪「ウソをつかない」ということは、宗教者に必須の信条であり、素質です。……どうか皆さん、信仰者として「ウソをつかない」生き方を守り通してください。≫

というお言葉があります(安部総理はウソつきだから支持してはいけない、という文脈で)。

ところで、谷口雅春先生は『神と偕に生きる真理 365 章』の 210 頁以下に、「世界最大の根本ウソは何か」と題し、次のように書かれています。

### ≪ 世界最大の根本ウソは何か

一つの嘘をつけば、その嘘を弁護したり、合理化するために、更に無数の嘘を重ねねばならなくなるのである。そして最も大いなるウソは人間は“肉体”という物質的存在だというウソである。

この「根本ウソ」を仏教では「根本無明」というのである。この「根本ウソ」を本<sup>だ</sup>ま<sup>だ</sup>と騙されたことを創世記では「知恵の樹の果」をアダムとイヴとが食べた象徴的物語で説いているのである。仏教では「この『根本無明』によって、人間は“生老病死”の四苦を受けるようになった」と説くのであり、キリスト教では、「“知恵の樹の実”を食したアダムの原罪によって人類は“罪の子”となり楽園から追放された」と説くのである。

吾々が“エデンの楽園”を奪還し、永久に“老病死の迷界”の現象から超越するためには“知恵の樹の果”を吐き出して、“生命の樹の実”をよく噛んで食べることである。“生命の樹の実”をたべるとは“生命の実相”の真理をよく咀嚼<sup>そしやく</sup>して自分の血となし肉となすことであるのである。

人間が肉体という物質的存在であるという“根本ウソ”から、人間は、女の子宮から生まれて来た肉体であり、老い、且つ病み、死すべきものだという第二のウソがあらわれて来るのである。

聖經『甘露の法雨』には

「最初の夢なければ 次の夢なし。悉く夢なければ本来人間清浄なるが故に 罪を犯さんと欲するも罪を犯すこと能わず、悉く夢なければ自性無病なるが故に 病に罹<sup>ひか</sup>らんと欲するも 病に罹ること能わず、悉く夢なければ本来 永<sup>かぎりなきいのち</sup> 生なるが故に死滅すること能わず……」

というように示されているのである。

“夢”というものは“ナイもの”を“アル”と信ぜしめられ“アルもの”を“ナイ”と見せられるものであるから、ウソの一種である。それゆえに、

「悉く夢なければ本来 永<sup>かぎりなきいのち</sup> 生なるが故に死滅すること能わず」

という聖句は、

「悉くウソなければ、本来 永<sup>かぎりなきいのち</sup> 生なるが故に死滅すること能わず」

と書きかえても同じ意味なのである。

何よりも、人間は肉体という物質的存在ではなく、“神の子”なる霊的実在であるという、最初の真理から出発し直すことが必要なのである。

(谷口雅春先生著『神と偕に生きる真理 365 章』210～212 頁より)≫

——これこそ、信仰者として守り通すべき「ウソをつかない」生き方の最大根本真理でありましょう。

<つづく> (2016.6.26)

## 261 世界最大の根本ウソは何か(2)

≪世界最大の根本ウソは、人間は“肉体”という物質的存在だというウソである≫

——と谷口雅春先生は説かれている(前項 #260 参照)。これこそ、信仰者として守り通すべき「ウソをつかない」生き方の最大根本真理でありましょう。

現在、生長の家教団の「環境運動」の根本前提として、「人間至上主義は間違っている」という肉体人間観、動物人間観がある。これが、宗教運動と言えるのか。宗教的に言えば、「根本ウソ」に立った運動になっているのではないか。

環境を大切にするのは当然のことである。環境は自心の展開であり、自分自身であると言えるからである。人間の(自分の)本体は神であり、環境も本来神(仏)の心の展開であるからである。

しかし、「人間至上主義は間違っている」という肉体人間観、動物人間観に立った環境運動は、“環境の奴隷”運動となる。「人間は肉体ではなく、至上なるもの——神である」という自覚に立ってすべてを礼拝生かして行くとき、環境は自ずから浄まるのである。ウソだらけの現象から出発して「太陽光発電」などに偏った運動は、かえって環境破壊に手を貸すことにもなり得る。

さて、雅宣総裁は、安部総理はウソつきだから支持してはいけない、とおっしゃるが、私は、そうは思わない。

その理由は後で述べるとして、民主党(現在の民進党)や共産党はウソをついていないのか。

民主党は、平成 21 年の衆院選で、ウソだらけの「マニフェスト」を高く掲げて大勝し、政権交代が行われた。しかし、そのマニフェストは大ウソだったことが明白となり、内政も外交も完全に破綻した。その結果、民主党政権は国民から見放され、その後惨敗して立ち直れないまま今日に至っている。

共産党は、基本的に天皇制反対であり、暴力革命も否定しない、民主主義に反する党なのであるが、現在はそれを隠している、ウソつきの党なのである。

そもそも日本共産党とは、大正 11 年(1922)ソ連に司令部があった国際共産主義組織コミンテルンの日本支部として誕生した政党であり、共産主義体制

とは、プロレタリア独裁=共産党独裁=党最高指導者専制の政治である。「君主制度の国は人間平等の原則に反し、民主的でなく、国民の自由は奪われる」という主張は全くの大ウソで、共産主義体制の国こそ、国民の自由は奪われ、共産党幹部以外の国民は差別され虐げられる自由も民主もない専制国家であることは、共産中国や北朝鮮を見れば明らかである。その共産主義を今も捨ててはいないのが共産党なのである。

「大ウソ」といえば、東京裁判(連合軍による「極東国際軍事裁判」というのは、国際法に準拠することもなく、戦勝国が敗戦国を懲罰のために勝手に裁いた、「裁判」という名に値しない茶番であった。連合軍軍総司令官だったマッカーサーが、後にそのことを証言している。

そして、「日本国憲法」がまた、一国の「憲法」というに値しない、国家主権のない時に占領軍によって作られた「占領基本法」にすぎない代物であり、「ニセ札」のような、「ニセ憲法」である。日本を永久に弱体化し米国の属国のようにし続けることを前提に、「主権在民」「軍備放棄」などを謳っているが、これが「崇高な人類の普遍的理想」だなどというのは、大ウソである。

百田尚樹氏著『カエルの楽園』がまるで予言の書になりそうな気配のある昨今、安保法制反対を唱えるなどは、それこそ時代錯誤である。

今年「ABCリスク」が取り沙汰されてきた。America(米国<トランプ>)、Brexit(英国<EU離脱>)、China(中国<習近平>)である。Bは現実のものとなり、そのほか北朝鮮の核の脅威も、冗談ではなくなった。

戦後 70 年以上もたった今、正しい世界平和実現のために、「ニセ憲法」を見直すことは当然すぎるほど当然なのである。私は、安部総理を応援し、与党および改憲勢力が3分の2以上を占めて、改憲への足がかりができるようになることを切望します。

(2016.6.27)

<http://misumaru.o.oo7.jp/>

(「みすまるの珠」ウェブサイト)より